

船舶事故調査報告書

令和元年 9 月 25 日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|----------------------------------|---|
| 事故種類 | 衝突 |
| 発生日時 | 平成 31 年 4 月 28 日 05 時 35 分ごろ |
| 発生場所 | 愛媛県今治市小島南西方沖 小島東灯標から真方位 169° 480m 付近 (概位 北緯 34° 07.5′ 東経 132° 59.1′) |
| 事故の概要 | 漁船さゆり丸は、北東進中、また、プレジャーボート福川丸は、漂 泊中、両船が衝突した。 |
| 事故調査の経過 | 令和元年 5 月 24 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済 |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 | A 漁船 さゆり丸、1.1 トン EH3-46477（漁船登録番号）、個人所有 B プレジャーボート 福川丸、0.6 トン EH3-47105（漁船登録番号）、個人所有 第 281-22434 号（船舶検査済票の番号） |
| 乗組員等に関する情報 | A 船長 A、二級小型・特殊・特定 B 船長 B、二級小型・特殊・特定 |
| 負傷者 | A なし B 軽傷 1 人（船長 B） |
| 損傷 | A 左舷船首部外板に擦過傷 B 左舷船尾部外板に亀裂 |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 南、風速 約 1.5m/s、視界 良好 海象：波高 約 0.5m、潮汐 上げ潮の末期 日出時刻：05 時 22 分ごろ |
| 事故の経過 | A 船は、船長 A が 1 人で乗り組み、漁場に向けて約 8 ノットの対地 速力で北東進中、船長 A が、早朝で付近には船がないと思い、船首 方に船首浮上による死角が生じた状態で航行を続け、B 船と衝突し た。 B 船は、船長 B が 1 人で乗り組み、友人 1 人を乗せ、船首を南西方 に向けて漂流中、船長 B が友人と共に釣りに夢中になっていたとこ ろ、A 船と衝突した。 船長 B は、帰港後に病院で診察を受け、左肘打撲擦過傷等と診断さ れた。 |
| 分析 | A 船は、北東進中、船長 A が、早朝で付近には船がないと思い、 船首方に船首浮上による死角が生じた状態で航行を続けたことから、 前路で漂流中の B 船に気付かず、B 船と衝突したものと考えられる。 B 船は、漂流中、船長 B が、釣りに意識を集中しながら漂流を続け |

| | |
|--------------|--|
| | たことから、接近するＡ船に気付かず、Ａ船と衝突したものと考えられる。 |
| 原因 | <p>本事故は、Ａ船が北東進中、Ｂ船が漂流中、船長Ａが、早朝で付近には船がないと思い、船首方に船首浮上による死角が生じた状態で航行を続け、また、船長Ｂが釣りに意識を集中しながら漂流を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p> |
| 再発防止策 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中、早朝で付近には船がないことが多くても、船首方に船首浮上による死角が生じる場合は、船首を左右に振るなど、死角を補う見張りを適切に行うこと。 ・漂流中であっても、周囲の適切な見張りを行い、他船の早期発見に努めること。 |